専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ドラマーズセオリー		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	39回 (78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験26年 1997年デビュー。その後、レコード会社所属アーティストのサポートメンバーやスタジオミュージシャンとして様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。TV出演やラジオ番組のパーソナリティー、教則本出版等、多方面で活動。				
授業概要					
音楽業界基礎知識やバンドでのデビューまでの流れ、そしてバンドの賢い運営方法など音楽分野の多岐にわたって取り扱う講義					
到達目標					
バンドというチームでライブやイベントに参加するときのコミュニケーションのとり方や大事にしなければならないことを知り1人の社会人として自立したミュージシャンになる術を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション 音楽業界基礎知識
【前期】 6～10回目	バンドでのデビューまでの流れ
【前期】 11～15回目	ドラマーとしての各種スキル 練習方法
【前期】 16～20回目	ドラマー視点でのバンドの運営方法
【後期】 21～24回目	ドラマー研究① 各ジャンル(ロック、ポップス)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 25～28回目	ドラマー研究② 各ジャンル(ジャズ、ブルーズ)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 29～32回目	ドラマー研究③ 各ジャンル(ファンク、プログレ)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 33～36回目	ドラマー研究④ 各ジャンル(その他)の教則映像鑑賞、及び説明、ディスカッション
【後期】 37～39回目	セルフプロデュースについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	技術、知識その両方を駆使して音楽業界をともに乗り越えよう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	39回 (78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 1990年メジャーデビュー。その後個人で活動を開始し、現在まで積極的に活動し、アルバム7枚、シングル12枚をリリース。				
授業概要					
DAW (i-Pad ガレージバンド) の使用法、音源データ作成、ドラマーに特化したDAW					
到達目標					
自動演奏、手動入力の手順を身に付けて、ドラマーとして幅を広げ、ドラム以外のパートも意識できる感覚を持つ。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション、アプリの特性や機能を使って何が出来るのか等の説明と、基本操作の方法等を学ぶ
【前期】 6～10回目	ドラムにおけるルーディメント系のフレーズの打ち込み 強弱の付け方等を理解して、実際のプレイにフィードバックする
【前期】 11～15回目	ドラムのパターンとフィルイン等、実際に出来るフレーズを交えての打ち込み
【前期】 16～20回目	ドラムレスの音源に自分で考えたリズムやフィルインの打ち込み
【後期】 21～24回目	簡単なコード理論等を学び、ガレージバンド独自の自動演奏とはどのようなものなのかを学ぶ
【後期】 25～28回目	①自動演奏を使って、実際にコードを入力
【後期】 29～32回目	②コードの構成音を身に付けて、手動(まみゅあるエディット)の方法を学ぶ
【後期】 33～36回目	①と②を総合的に合わせて、具体的にコードとリズムトラックで曲の形を作成
【後期】 37～39回目	既製品の曲のコード譜を使って、実際に曲を仕上げる
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、作成データの提出・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	打ち込みを覚えてドラムやリズム、音符の並びや汎用性を覚えよう。
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	38回 (76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴24年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞（滑舌）
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ベーシック I		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	39回 (78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験23年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
ドラムに関する取扱い説明、及び基礎トレーニング					
到達目標					
音楽におけるドラムという楽器の役割を理解し、演奏に必要な身体の使い方と奏法の向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ドラムセットのセッティングと調整方法。ドラム譜の読み方。 両手両足の一致、分離を狙ったリズムトレーニング
【前期】 4～9回目	バスドラム、スネアドラム、ハイハットを用いたリズムトレーニングと8ビートの叩き方。 4種類のストロークの説明と練習方法。 ハイハットにおけるダウンストロークとアップストロークの使い方。
【前期】 10～14回目	身体に無理のかからないフットワーク奏法。 シンバル、タムを用いた効率的な移動方法。
【前期】 15～20回目	8分音符、16分音符を使ったフィルインの構築方法とその応用。 アクセントストロークを使ったフィルインの構築とその応用。 左足を使ったリズムキープの仕方とその応用。
【後期】 21～23回目	キメ、ブレイクの説明と音符の長さを意識したアプローチ方法。 アップテンポへのアプローチ方法。
【後期】 24～28回目	バスドラムのダブルアクションの説明と練習方法。 スローテンポ、ミディウムテンポにおける16ビートの叩き分けと練習方法。 バスドラム、スネアドラムと使った16フィルの演奏方法。
【後期】 29～32回目	3連符の説明と演奏方法。 6/8拍子の説明とアプローチ方法。
【後期】 33～35回目	3連符を使ったフィルインの構築方法とその応用。 2拍3連の説明と練習方法。
【後期】 36～39回目	シングルストローク、ダブルストローク、パラディドル説明と練習方法。 4種のパラディドルのドラムセットへの応用。
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ドラムの基本を身に付け、より楽しく演奏の幅を広げましょう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	グループ I		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験26年 1997年デビュー。その後、レコード会社所属アーティストのサポートメンバーやスタジオミュージシャンとして様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。TV出演やラジオ番組のパーソナリティー、教則本出版等、多方面で活動。				
授業概要					
グループという観点からドラム演奏の流れに着目し体の使い方から見つめ直す。					
到達目標					
グルーブを中心とした観点からドラマーとして必要なセオリーとテクニックを身に付け楽曲に適したグルーブでの演奏をする為の基盤を作る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イントロダクション 各種楽器のセッティングや使用方法、調整の仕方
【前期】 4～8回目	4種類のストロークの説明と使い分け方 ストロークの使い分けを用いた8分、3連、16分のアクセントストローク
【前期】 9～16回目	アクセントストロークを用いたリズムパターンへの応用 8ビート、シャッフル。8分音譜を基調としたリズム シングルストロークロールの説明
【前期】 17～21回目	シングルストロークを用いたリズムの細分化 (4分、8分、3連、16分、6連、32分) アクセントストロークやシングルストロークを用いたフィルイン
【後期】 22～24回目	手のストロークとフットワークを使ったコンビネーション 手足のコンビネーションを用いた応用 (リズムパターン等)
【後期】 25～29回目	16分音譜を基調としたリズム 楽曲のコピーにおけるグルーブ観点からの解析
【後期】 30～33回目	基本のドラミングフォームの説明 四肢を別々に動かすための練習
【後期】 34～37回目	カメラ撮影を用いた自己分析 リズムパターンの解析
【後期】 38～40回目	ダブルキック等のフットワークの説明 ダブルストロークの説明
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	グルーブ=流れ。流れの有る音楽的なプレイを目指して頑張ろう！
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	カウンセリング実技		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	39回 (78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験22年 2001年メジャーデビュー。TV音楽番組にレギュラー出演。その後、複数のグループのドラムを務め、日本全国にとどまらず海外でも活躍。現在はさまざまな現場での技術指導など、後進の育成も務める。				
授業概要					
日々の練習やライブ、レコーディング等、音楽活動における疑問を解決していく授業。					
到達目標					
ドラマーとして必要なセオリー、及びスキルを身に付け、より優れた演奏家になるスキルを習得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	イントロダクション
【前期】 3～11回目	自分の演奏の欠点や長所を分析し各講師とディスカッションする
【前期】 12～20回目	自身の長所を活かした演奏を行う考え方や方法をレクチャー、考察
【後期】 21～30回目	日々のドラムプレイや練習で生まれてきた疑問や質問を解説、実演
【後期】 31～35回目	オリジナルの楽曲を演奏した時や既成の曲を演奏した際に出てくる疑問や質問を解説
【後期】 36～39回目	総括としてプロドラマーとしての日々の生活の仕方や姿勢、取り組み方等メンタルにかかわることや体づくり等のフィジカルにかかわることについてのディスカッション。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	自分の長所、短所を知りストロングポイントを活かしたドラマーに成長しよう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	フィジカルトレーニング I		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 1990年メジャーデビュー。その後個人で活動を開始し、現在まで積極的に活動し、アルバム7枚、シングル12枚をリリース。				
授業概要					
身体を構造を理解して理にかなった演奏法を身に付ける。					
到達目標					
効率の良い体の使い方を身に付けてケガをせず、バテることなく長時間演奏に対応できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	イントロダクション
【前期】 3～11回目	チェンジアップ、ルーディメンツを用いたドラマー的な体の使い方。
【前期】 12～20回目	8ビート、16ビート、シャッフル
【後期】 21～27回目	3WAY, 4WAYを使ったリズムパターン
【後期】 28～34回目	3WAY, 4WAYを使ったリズムパターンとフィルイン
【後期】 35～40回目	8ビート、16ビート、3連シャッフル系のパターンの効率的な奏法と応用
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	様々「効果的」を知って、効率よく演奏をスキルアップ。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ		授業形態/必・選	演習	必修
			年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ドラム基礎知識		授業形態 / 必・選	講義	選択必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験22年 2001年メジャーデビュー。TV音楽番組にレギュラー出演。その後、複数のグループのドラムを務め、日本全国にとどまらず海外でも活躍。現在はさまざまな現場での技術指導など、後進の育成も務める。				
授業概要					
ドラムの基礎知識についての講義					
到達目標					
楽器の構造や発音原理の修得					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ドラムメーカーの歴史と特徴。 ドラムスティックの種類、材質、形が音にどのように影響するか。
【前期】 5～11回目	ブラシ、ロズ、マレットの種類と奏法について フットペダルの各部名称とセッティング、調整の仕方
【前期】 12～17回目	スネアドラムの各部名称とメンテナンス方法 スネアワイヤーの材質、種類、取り付け方法
【前期】 18～20回目	スネアドラムのシェルの材質による音の違い
【後期】 21～26回目	スネアドラムのチューニング方法 ドラムヘッドの種類と音の特徴
【後期】 27～32回目	ドラムのミュート方法とその効果 シンバルメーカーの歴史と特徴
【後期】 33～37回目	シンバルの材質、厚さによる音の違い 各種スタンドの操作方法。タムタムの種類とサイズ、各部名称
【後期】 38～40回目	バスドラムの種類とサイズ、各部名称。ドラムセットのセッティング方法 ドラムセットのチューニング方法
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	楽器の特性を知って自分で自分の求める楽器が選べるドラマーになりましょう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	スコアリーディング		授業形態 / 必・選	講義	選択必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験23年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
ドラム譜やマスター譜等、譜面についての基礎知識、初歩的な音楽理論についての講義。					
到達目標					
ドラマーに必要な基礎知識を用いて演奏に対してのレベルアップと応用力を深める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	各種音符、休符の説明
【前期】 5～11回目	リズムを用いたリズム譜の作成、イヤートレーニング
【前期】 12～17回目	楽曲の構成譜、マスター譜の作成法
【前期】 18～20回目	繰り返し記号、見やすいマスター譜の作成法
【後期】 21～26回目	楽曲内のリズムパターンを譜面化する
【後期】 27～32回目	楽曲内のフィルインを譜面化する
【後期】 33～37回目	課題曲のドラム譜の作成
【後期】 38～40回目	課題曲、自由曲等の複数曲のドラム譜の作成と編集
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	譜面を作成することにより自分のプレイをより具体的に分析できるドラマーになろう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ドラマーの為の作曲講座 I		授業形態 / 必・選	講義	選択必修
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験22年 2001年メジャーデビュー。その後様々なバンドのサポートや自身で結成したバンドでライブ出演やレコーディングに参加等、積極的に活動中。				
授業概要					
楽曲制作に関する基礎知識、ガレージバンド (i-P a d)、及びギターを用いたデモ音源の制作の仕方や必要な楽器の奏法について学んでいく					
到達目標					
オリジナル楽曲を作る為の素養を身に付ける					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	簡単なセオリー、楽曲のキー、音楽理論について
【前期】 3～11回目	ギター演奏、キーボード演奏の奏法理解 作曲に必要なコードの成り立ち、コードの組み合わせ
【前期】 12～20回目	コード2つのみで作曲、コード3つみで作曲 発表会、ディスカッション、及び指導
【後期】 21～27回目	70～90年代の流行曲のコード進行、メロディの研究 R E C音源の取り込み、楽曲への反映
【後期】 28～34回目	流行コード進行を使つての作曲 (4～5パターン) 発表会、ディスカッション、及び指導
【後期】 35～40回目	打ち込みのデモ音源をバンドアンサンブルにおいて表現するには 自分のバンドに反映できる作曲 (自由曲)
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	バンドが長く活動する為には、とにかく多くの楽曲を発表することです。 メンバー全員が作曲できるバンドを目指し、基礎を学びましょう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	リズムトレーニング		授業形態/必・選	実習	選択必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験37年 単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず、ジャズはもちろんのことフュージョン、ロック、ラテンと幅広いリズムに精通するオールマイティ。自身のバンドのリーダーとして都内を中心にライブ活動を展開中。				
授業概要					
リズムトレーニングのセオリーを学ぶ。					
到達目標					
ドラムセットがなくとも自身をコントロールする感覚の維持とテンポキープが出来る自分専用のトレーニングスタイルを作り上げる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ウォーミングアップ法(シングル、ダブル) シングルストロークの重要性を説明(4分、8分、16分)
【前期】 6～15回目	ダブルストロークのスネア、タム、フロアタムへの対応方法 ダブルストロークを用いた各パルスのリズムトレーニング
【前期】 16～20回目	パラディドルを用いたリズムトレーニング。セオリーと応用
【後期】 21～25回目	5ストロークのリズムトレーニング
【後期】 26～35回目	その他ストロークの確認とテキストを用いた演習 フラム、ラフの用法。フラムパラディドルの確認
【後期】 36～40回目	各ストロークを応用したフリーソロの実現 テンポ、コントロール、フォーム、感覚を網羅するリズムトレーニングの実現
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	リズムの仕組みを知って本当の意味でのリズム感を養いましょう。
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAW I (前期)		授業形態 / 必・選	講義	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験13年 音声合成ソフトを使ったLP盤を制作するなど、前衛的な表現活動で注目されている。TVCMへの出演や、コンビニエンスストアのイメージソング提供をきっかけにメディアへの露出を始め、アーティスト活動以外に作家やタレントとしての顔を持つ。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～2回目	主にオーディオデータを使用した製作 Loopの貼り付けなどで、手軽に楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
3～4回目	主にデータ入力を使用した製作 一からデータを打ち込んでいく方法で楽曲を作る
5～8回目	オーディオデータを録音する ヴォーカル、ギターなど、実際の演奏を録音してみる
9～12回目	オリジナルトラックの製作 ヴォーカル用のオケ、オリジナル曲のデモ、HipHopやEDMなどのトラック
13～16回目	簡単なMIX 2MIXやバラデータなどの作成
17～20回目	作品完成、及び提出
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	今は誰でもDAWを使用して音楽が作れる時代ですので、自分の音楽制作の幅を広げる為に楽しく学びましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校E S Pエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAW I (後期)		授業形態 / 必・選	講義	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験13年 音声合成ソフトを使ったLP盤を制作するなど、前衛的な表現活動で注目されている。TVCMへの出演や、コンビニエンスストアのイメージソング提供をきっかけにメディアへの露出を始め、アーティスト活動以外に作家やタレントとしての顔を持つ。				
授業概要					
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上					
到達目標					
自身の表現したい音楽を、DAWで完成させる					

授業計画・内容	
1～2回目	Drummer機能やLoopの貼り付けを中心に、楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
3～4回目	Midiキーボードを打ち込んでいく方法で楽曲を制作する タイムクオンタイズの方法を習得
5～8回目	打ち込み音源に、実際のギター・ベースなどの楽器演奏を録音する
9～12回目	ヴォーカル用のオケ制作、オリジナル楽曲のデモ制作 流行音楽の耳コピおよびオケ制作
13～16回目	トラックのミックスの重要性を学ぶ
17～20回目	楽曲制作および発表、講師や受講者による講評
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今は誰でもDAWを使用して音楽が作れる時代ですので、自分の音楽制作の幅を広げる為に楽しく学びましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択作曲法(前期)		授業形態/必・選	講義	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験37年 様々なアーティストのライブツアーに参加する一方、アレンジャー・キーボーディストとしても活動する。また、ミュージカル、舞台劇、映画、TVドラマ等の音楽制作に当たる。キーボードの教則本を出版しており、近年はトレーナーとしても活動。				
授業概要					
楽曲を分析する事でコード理論を学び作曲に応用する方法を習得する					
到達目標					
音階と調性や音階上に出来る基本コード(ダイアトニックコード)などの基本理論を学ぶ 楽曲を音楽理論的に分析する力を養う 作曲に必要なプロセスを具体的な例を使いながら習得する					

授業計画・内容	
1~2回目	音階とは何か「調」「key」「音域」の定義 音階上にできる基本コード(ダイアトニックコード)
3~4回目	コードの構成音とコードの機能 ディグリを理解することによって調性とコードの機能を正しく理解する
5~8回目	メロディーとコードの関係「和声音」「非和声音」 メロディーの動き「順次進行」「跳躍進行」
9~12回目	キー判定。終始感のある音を見つける事でその曲のキーを判定する 課題曲のコードにディグリを記入する
13~16回目	コード進行の特徴を理解する コードの構成音を理解しメロディーが和声音か非和声音かを区別する
17~20回目	曲のテンポとリズムパターンを聞き取り簡単なリズム譜を作成する
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	音階や調、コード理論を正しく理解する事で音楽をより深く具体的に理解し、作曲や楽器の演奏・歌唱の表現につなげる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択作曲法(後期)		授業形態/必・選	講義	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験37年 様々なアーティストのライブツアーに参加する一方、アレンジャー・キーボーディストとしても活動する。また、ミュージカル、舞台劇、映画、TVドラマ等の音楽制作に当たる。キーボードの教則本を出版しており、近年はトレーナーとしても活動。				
授業概要					
楽曲を分析する事でコード理論を学び作曲に応用する方法を習得する					
到達目標					
音階と調性や音階上に出来る基本コード(ダイアトニックコード)などの基本理論を学ぶ 楽曲を音楽理論的に分析する力を養う 作曲に必要なプロセスを具体的な例を使いながら習得する					

授業計画・内容	
1~2回目	音階についての講義、「調」「key」「音域」の定義について 基本コード(ダイアトニックコード)について
3~4回目	コードを構成する音階について、そのコードの機能について 度(ディグリー)・調性・コードの機能について
5~8回目	主旋律とコードの関係、メロディーの動き
9~12回目	コード進行の特徴についての理解 メロディーがコード構成音の和声音か非和声音かを区別する
13~16回目	楽曲のキーを読み取る
17~20回目	オリジナル楽曲もしくは既存曲の譜面作成および講評
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	音階や調、コード理論を正しく理解する事で音楽をより深く具体的に理解し、作曲や楽器の演奏・歌唱の表現につなげる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブル I-A(前期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲に対するの完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。 ・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。
4～6回目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。 ・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。 ・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。
7～9回目	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。 ・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。
10～12回目	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。 ・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。
13～16回目	曲に対するの、素早い対応と理解力を向上させトータル的なプロデュースが出来る様になる。
17～20回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アーティストにとってバンドアンサンブルは必要不可欠です。自身だけではなくバンドで音を合わせることに意識を向けていきましょう。
使用教科書	マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブル I-A(後期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	課題曲に対する理解とその楽曲に対する自身の表現方法と向き合う パート同志の関連性を理解し、アンサンブル時のコミュニケーションの方法を知る
4～6回目	課題曲のマスター譜作成 音符や記号を用いて、各パートに必要な情報や変更を譜面に落とし込む
7～9回目	小発表会 パフォーマンスを客観視し、演奏技術面・パフォーマンス面を反省
10～12回目	学内イベントおよび外部イベントにおける提出必要資料を作成する
13～16回目	発表会へ向けたアンサンブルおよびパート別練習
17～20回目	大発表会 ステージ上で照明のある環境での発表を行い、細かなステージ演出まで反省
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	アーティストにとってバンドアンサンブルは必要不可欠です。自身だけではなくバンドで音を合わせることに意識を向けていきましょう。
使用教科書	マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブル I-B(前期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～6回目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲に対するの完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。 ・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。
7～12回目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。 ・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。 ・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。
13～18回目	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。 ・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。
19～24回目	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。 ・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。
25～32回目	曲に対するの、素早い対応と理解力を向上させトータルのプロデュースが出来る様になる。
33～40回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	アーティストにとってバンドアンサンブルは必要不可欠です。自身だけではなくバンドで音を合わせることに意識を向けていきましょう。
使用教科書	マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブル I-B(後期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～6回目	課題曲に対する理解とその楽曲に対する自身の表現方法と向き合う パート同志の関連性を理解し、アンサンブル時のコミュニケーションの方法を知る
7～12回目	課題曲のマスター譜作成 音符や記号を用いて、各パートに必要な情報や変更を譜面に落とし込む
13～18回目	小発表会 パフォーマンスを客観視し、演奏技術面・パフォーマンス面を反省
19～24回目	学内イベントおよび外部イベントにおける提出必要資料を作成する
25～32回目	発表会へ向けたアンサンブルおよびパート別練習
33～40回目	大発表会 ステージ上で照明のある環境での発表を行い、細かなステージ演出まで反省
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	アーティストにとってバンドアンサンブルは必要不可欠です。自身だけではなくバンドで音を合わせることに意識を向けていきましょう。
使用教科書	マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカルI(前期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	<p>実務経験29年</p> <p>コーラスワークを中心に活動。ポップス、ロック、サルサ、オールディーズ、歌謡曲、演歌などジャンルを問わずさまざまな歌手のライブサポートやレコーディング、CMなどのスタジオワークを経験。</p>				
授業概要					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
到達目標					
<p>歌唱を通して、アーティストに必要な「人前でのステージング」に対する自信を培う。</p> <p>また、技術だけではなく仕組みを学ぶことで、自主的にも継続可能な練習へつなげる。</p>					

授業計画・内容	
1～2回目	レベルチェックを行い、クラス分けをする。
3～4回目	発声①腹式呼吸と共鳴(からだのしくみの解説・呼吸法の実践)
5～8回目	発声②ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール 呼気吸気のバランス)
9～12回目	発声③リズムと滑舌・スタッカート(母音子音の口の形 8ビート16ビートそれぞれの感じ方)
13～16回目	発声④表現力を身に付ける(歌詞の解釈・音読 ステージング)
17～20回目	これまでに学んだことを活かして、合同発表会を行う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカルI(後期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験29年 コーラスワークを中心に活動。ポップス、ロック、サルサ、オールディーズ、歌謡曲、演歌などジャンルを問わずさまざまな歌手のライブサポートやレコーディング、CMなどのスタジオワークを経験。				
授業概要					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
到達目標					
歌唱を通して、アーティストに必要な「人前でのステージング」に対する自信を培う。 また、技術だけではなく仕組みを学ぶことで、自主的にも継続可能な練習へつなげる。					

授業計画・内容	
1～2回目	クラス分けおよび自由曲の決定
3～4回目	腹式呼吸の方法、共鳴 自由曲の歌唱とフィードバック
5～8回目	ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール) 自由曲の歌唱とフィードバック
9～12回目	リズムコントロールと滑舌について 自由曲の歌唱とフィードバック
13～16回目	楽曲に合った表現を身につける 発表会の楽曲決定と練習
17～20回目	全クラス合同でステージ発表会
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択エレキギター(前期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴6年 自身のバンドのギターリストとして活動開始。解散後、サポートギターリストとしてのキャリアを開始し、現在は後進の育成も行っている。				
授業概要					
エレキギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。					
到達目標					
エレキギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	エレクトリックギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明
3～4回目	オープンコードの習得
5～8回目	パワーコードの習得
9～12回目	簡単なコード進行の習得
13～16回目	課題曲を用いての演奏
17～20回目	マルチエフェクターの使用方法和サウンドメイキングについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択エレキギター(後期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴6年 自身のバンドのギターリストとして活動開始。解散後、サポートギターリストとしてのキャリアを開始し、現在は後進の育成も行っている。				
授業概要					
エレキギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。					
到達目標					
エレキギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	ギターイクイップメント、TAB譜と五線譜の違い
3～4回目	パワーコードを中心としたトレーニング
5～8回目	パワーコードを用いたコード進行
9～12回目	オープンコードを中心としたトレーニング
13～16回目	オープンコードを中心としたコード進行
17～20回目	演奏とエフェクター操作について
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アコースティックギター(前期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験38年 ジャズ、ラテン、クラシックなど幅広く学ぶ。CM曲やCDのレコーディング、ライブ等のセッションを重ね、教則本を数冊出版。また、舞台劇中における楽士おして出演し、好評を得た。その後、ヨーロッパツアーを行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
アコースティックギターの基礎的な演奏方法や、コード進行の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
アコースティックギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	アコースティックギターの各部名称、TAB譜、コードダイアグラムなどの説明。
3～4回目	8ビートのコードストローク、コードチェンジの練習。
5～8回目	ダイアトニックコード(3声、4声)の説明。
9～12回目	主要なコード(メジャー、マイナー、セブンス)のローポジションでの練習。
13～16回目	フィンガースタイルを中心とした課題曲の練習。
17～20回目	アルペジオ、ツーフィンガースタイルの練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アコースティックギターの演奏を習得して、アーティストとしての表現の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アコースティックギター(後期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験38年 ジャズ、ラテン、クラシックなど幅広く学ぶ。CM曲やCDのレコーディング、ライブ等のセッションを重ね、教則本を数冊出版。また、舞台劇中における楽士おとして出演し、好評を得た。その後、ヨーロッパツアーを行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
アコースティックギターの基礎的な演奏方法や、コード進行の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
アコースティックギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	アコギの仕組み、エレアコの機能、TAB譜と五線譜の違い
3～4回目	オープンコードを中心としたトレーニング
5～8回目	オープンコードを中心としたコード進行
9～12回目	ブリッジミュートを活用したメリハリの出し方
13～16回目	アルペジオ、ツーフィンガースタイル
17～20回目	演奏&歌唱の弾き語りトレーニング
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アコースティックギターの演奏を習得して、アーティストとしての表現の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベース I (前期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	<p>実務経験40年</p> <p>1982年から100人以上の歌手のサポートを務める。自身がメンバーとして参加する複数のバンドにおいても多数のCDをリリースし、全国各地でコンサート活動を行う。有名ミュージカルの全国公演を含む、多数のミュージカルにも参加。ベースの教則本を執筆。</p>				
授業概要					
ベースの奏法やそれに準じた音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
課題曲におけるベースラインの演奏が可能になる。					

授業計画・内容	
1～2回目	チューニング方法と右手の2フィンガーピッキングの奏法。
3～4回目	左手のフォーム。ワンポジションで弾くメジャースケールの運指。 メジャースケールとマイナースケールの違いと左手のシェイプ。
5～8回目	4小節程度の簡単なコード進行でコードトーンを弾いてみる。 左手のフォームの強化(筋トレ)音符の説明とリズムトレーニング。
9～12回目	譜面の読み方、音階の説明。短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。ピック奏法。
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲をメトロノームと一緒に演奏。
17～20回目	簡単なリフ等を演奏。楽曲演奏に挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベース I (後期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験40年 1982年から100人以上の歌手のサポートを務める。自身がメンバーとして参加する複数のバンドにおいても多数のCDをリリースし、全国各地でコンサート活動を行う。有名ミュージカルの全国公演を含む、多数のミュージカルにも参加。ベースの教則本を執筆。				
授業概要					
ベースの奏法やそれに準じた音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
課題曲におけるベースラインの演奏が可能になる。					

授業計画・内容	
1～2回目	ベースのレギュラーチューニング、ツーフインター奏法
3～4回目	左手の運指トレーニング。メジャースケールの運指。 メジャーとマイナーの違い。
5～8回目	王道のメジャーコード進行の演奏。 メトロノームを用いたリズムトレーニング。
9～12回目	ピックを用いた演奏と、ツーフインター奏法との違いを理解する。
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲をメトロノームと一緒に演奏。
17～20回目	簡単なリフを中心に、楽曲演奏を練習
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラム I (前期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験22年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～2回目	自己紹介、授業内容の説明。 到達点、目標をそれぞれ決めてもらう。
3～4回目	楽器の名称、簡単なドラム譜の読み方、各楽器の特徴、セッティング方法。 8ビート：様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
5～8回目	フィルイン：8分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
9～12回目	16ビート：16分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
13～16回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク (8分、3連、16分)。
17～20回目	課題曲に合わせ演奏。
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラム I (後期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験22年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～2回目	自己紹介、授業内容の説明。 各々の目標決定を行う。
3～4回目	各楽器の名称や仕組みを知り、自身にあったセッティングを行う。 様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
5～8回目	8ビートを基調としたリズムパターンにフィルインを入れる スティックコントロールとリズムキープ①
9～12回目	16ビートを基調としたリズムパターンにフィルインを入れる スティックコントロールとリズムキープ②
13～16回目	課題曲に合わせた演奏
17～20回目	自由曲での演奏
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードI(前期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。</p>				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1~2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3~4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5~8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9~12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13~16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17~20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。 コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードI(後期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1~2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3~4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5~8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9~12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13~16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17~20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。 コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンス I (前期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴17年 アメリカへの留学経験もあり、帰国後は女性シンガーの専属ダンサーとして全てのステージで10年間メインダンサーを務める。 現在のジャンルはJazz Funkを中心に、Body Makingのインストラクターとしても活動中。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～2回目	基本的な身体の使い方をストレッチなどを通して学ぶ。
3～4回目	身体の細かい部分の動かし方を習得する。
5～8回目	音楽やリズムに合った身体の動かし方を学ぶ。
9～12回目	課題曲を使用してのリズムの取り方と、振り付けをパートごとに練習する。
13～16回目	課題曲および振り付けを使用して、1曲通して練習する。
17～20回目	授業内発表会
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	基本的な身体の動かし方など、初歩の部分から初めていきますので、楽しみながらダンスの基礎を習得してください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンス I (後期)		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	20回 (40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	<p>実務経歴17年 アメリカへの留学経験もあり、帰国後は女性シンガーの専属ダンサーとして全てのステージで10年間メインダンサーを務める。 現在のジャンルはJazz Funkを中心に、Body Makingのインストラクターとしても活動中。</p>				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
<p>ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。</p>					

授業計画・内容	
1～2回目	各部アイソレーション
3～4回目	簡単な振り付けでワンエイト振り入れ、反復練習と講師による修正①
5～8回目	簡単な振り付けでワンエイト振り入れ、反復練習と講師による修正②
9～12回目	各自発表を行い、講評を行う
13～16回目	複数人での振り入れ、反復練習と講師による修正
17～20回目	授業内発表会と講評
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	基本的な身体の動かし方など、初歩の部分から初めていきますので、楽しみながらダンスの基礎を習得してください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アフリカンパーカッション(前期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験14年 卒業後アフリカンドラムに出会い、さらに造詣を深める為アフリカへ渡る。 帰国後はベーシスト、パーカッショニスト、ギタリストとマルチプレーヤーとして現在も活躍中。				
授業概要					
歌を歌うこと、楽器の演奏、ダンス等、音楽を通しての表現を行う中で、要素としての「リズム」にまつわることをパーカッションを使用して体験し学んでいく授業。同時に「グループ」というものは何かということを実際に経験出来る授業である。					
到達目標					
リズムに対する考え方や感じ方から、アンサンブルの基本(ダンス等も含めた広い意味でのアンサンブル)、お互いの音や声や動きの捉え方などを広く学び、習得する。					

授業計画・内容	
1~2回目	使用するパーカッション『ジェンベ』『ドウンドウン』の楽器としての構造、発祥した地域、簡単な歴史、構え方、音の出し方などの解説。
3~4回目	練習用の簡単なフレーズを通して実際に音を出してみる。そして、その楽器のサウンドを知る。
5~8回目	実際のアフリカの伝統的なリズムのフレーズを学ぶ。
9~12回目	同じリズムの中にも各楽器において1種類から3種類程度のフレーズがあるのでそれを学ぶ。それを合奏することで「ポリリズム」を学ぶ。
13~16回目	一人ずつ個別に練習するのではなく、全員で合わせて合奏しながら反復していく。
17~20回目	イントロやアウトロのフレーズなどをつけ曲にしていく。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	一貫してパーカッションを使用するがその楽器の上達が第一目標ではなく、あくまでもアンサンブルをする上での重要なノウハウとリズムについてを学ぶことが目的である。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アフリカンパーカッション(後期)		授業形態/必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験14年 卒業後アフリカンドラムに出会い、さらに造詣を深める為アフリカへ渡る。 帰国後はベーシスト、パーカッションニスト、ギタリストとマルチプレーヤーとして現在も活躍中。				
授業概要					
歌を歌うこと、楽器の演奏、ダンス等、音楽を通しての表現を行う中で、要素としての「リズム」にまつわることをパーカッションを使用して体験し学んでいく授業。同時に「グループ」というものは何かということを実際に経験出来る授業である。					
到達目標					
リズムに対する考え方や感じ方から、アンサンブルの基本(ダンス等も含めた広い意味でのアンサンブル)、お互いの音や声や動きの捉え方などを広く学び、習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	授業に使用するアフリカンパーカッションの歴史を学ぶ 基礎的な演奏方法
3～4回目	一定のテンポでアンサンブルを行う練習。
5～8回目	アフリカンパーカッションならではのグルーブ感を身体で覚える。
9～12回目	打楽器以外の民族楽器を取り入れ、よりアンサンブルに厚みを出す
13～16回目	自身の専攻パートにどのようにこのグルーブ感や音色を活かせるか研究する
17～20回目	この授業を通して培った知識・技術をどのように今度活かせるのか発表する
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	一貫してパーカッションを使用するがその楽器の上達が第一目標ではなく、あくまでもアンサンブルをする上での重要なノウハウとリズムについてを学ぶことが目的である。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。